

「ユニバーサルデザインについて」

校長 安藤 徹



2学期が始まり早1か月・・・10月になりました。

ずいぶん時間はたってしまいましたが、9月14日（土）の「岩桜祭」では保護者の方々をはじめ地域の方々や卒業生の皆さんなどたいへん多くの人に来校いただき、生徒たちの



日ごろの学習の成果や文化祭のために練習してきた成果などに励ましやねぎらいの言葉、そして温かい拍手などをたくさんいただいたことにこの場をお借りしあらためて感謝申し上げます。

ありがとうございました。

さて、10月14日は「スポーツの日」ですね。もともと1964年に行われた東京オリンピック開会式の10月10日を記念し制定された体育の日という祝日が、10月の第2月曜日の移動祝日となり、その後2020年からスポーツの日という名称にかわったということをご存じの方も多と思います。

そして、今年7月8月に行われたパリ・オリンピック/パラリンピックでの熱い戦いはまだみなさんの記憶に新しいところだと思いますが、私はオリンピック・パラリンピックと聞くことあることを思い出します。

それは私が平塚盲学校という学校に勤務していた7～8年前、視覚障がい者対象に「柔道教室」というイベントが学校で開催された時のことです。今回のパリ・パラリンピックの「柔道」視覚障害女子の部で見事金メダルを獲得した「廣瀬順子さん」も講師として来られ、その際にご自身が大切にしているという2016年のブラジルのリオデジャネイロパラリンピックで獲得した銅メダルを実際に見せてくれました。



それを実際に手にとってみると、とても重くて、厚みのあるメダルでした。厚みがあるだけでなく、中には金属の球が入っていて、振ってみると音がして、メダルの色ごとに音色が違っても教えてくれました。その時の私はそんなちょっとした簡単な工夫にとっても感動し、うれしい気持ちになったことをよく覚えています。

1990年代から世界に広まり始めた「ユニバーサルデザイン」という考え方・・・それは障害の有無や国籍・性別・文化などにかかわらず、物事をどんな人にもわかりやすく使いやすくデザインするという考え方です。先ほど紹介した柔道の廣瀬さんが見せてくれたメダルに施された工夫もまさしくこのユニバーサルデザインの考え方を取り入れたものになります。よく「バリアフリー」という言葉と混同されがちですが、バリアフリーの「バリア」は障害という意味ですので、「障害があることを前提に、その障壁を後から取り除く」という考え方となり、「初めからすべての人が利用しやすいようにデザインする」ユニバーサルデザインとは異なる意味を持ちます。

多様性が尊重されつつあるとはいえ、現代社会においてはまだまだ様々な生きづらさがありますが、「いつでも、どこでも、誰にでも」を中心のコンセプトにしたこのユニバーサルデザインによってちょっとした人への優しさを感じられるような気がします。

そして教育の場においても、障害の有無にかかわらず誰もが学ぶ喜びや達成感を味わえるようにしていくためにはこのユニバーサルデザインは今や不可欠なものとなっています。

岩戸支援学校の「UD（ユニバーサルデザイン）化」も今後さらに進めていきます。

令和6年10月1日